

所内研修⑧ 第2回島尻bookカフェ

「島尻は一つ」を合い言葉にボランティア同士が集まり、情報交換や交流を行うことで、学校ボランティア活動の充実を図ることをねらいとして実施している「島尻地区小中学校 読み聞かせ・読み語りボランティア交流会『島尻 book カフェ』」の第2回が、去る2月3日(水)に南部総合福祉センター1階ホールで開催されました。長期研究員はその第3部に所内研修として参加しました。

第3部は、朗読家の熊澤南水氏を講師に「ことばは生きている」の講話と「糸車」の朗読でした。

6歳で父を亡くし、母と弟と共に故郷の青森県に戻り極貧生活をおくっていたのですが、11歳で東京の知人に養女として請われ、21歳で結婚。厳しい姑に仕えながら5人の娘を育て、40歳で語り手の道を目指し猛勉強して、現在に至る半生を「苦勞させてもらった体験は次に自分に生かせるもので有り、マイナスをプラスに跳ね返し、やりたいことはやればいい、それを決めるのは自分自身。その為には、自信がないとダメ、その為には勉強も必要。『群れない、ぶれない、諦めない』ことが私を支えてきました」と語り、私が選ぶ作品は、体験が生かされるようにどこかに私自身がいますと、前置きし、山本周五郎作 婦道記「糸車」を朗読してくださいました。

しーんと静まりかえった会場に、熊澤南水氏の声が響き渡り、その繰り出す世界が、絵のように目の前に広がるようでした。体験を経た思いが込められた朗読は、「ことばは生きている」と感じさせられるものでした。



写真1 所内研修の様子



写真2 講師 熊澤南水氏



写真3 講師を囲んで

第2回 島尻bookカフェ交流会概要

- 第1部 「佐賀県伊万里市民図書館」視察報告
- 第2部 グループワーク
「お勧め本の紹介と読み聞かせの実演」
「変わり種の実演」
- 第3部 講演 「ことばは生きている」
朗読 「糸車」
山本周五郎作 婦道記
講師 熊澤南水氏



【教育研究員の感想】（研修日誌から）

熊澤南水先生の講演は、あまりのすばらしさに、最初から最後まで、涙が溢れて止まりませんでした。波瀾万丈の人生。逆境の中でも明るく、前向きに人のせいにすることなく精一杯生きてきた南水先生の生い立ちの話から、多くのことを学びました。そして、75歳の今も輝き続けている理由が分かりました。常に、前向きな考え方をして、今を精一杯生きる努力をし、生きることを楽しんでいる南水先生だから、年を重ねるごとに輝きを増していくのだと感じました。南水先生のどの言葉も私の心に響きましたが、「マイナスの言葉からは何も生まれません。言葉は生きている。」「歳を重ねるとすばらしいこと。」「苦労した人はいっぱいいる。その後の生き方が、人の道を分けていく」「挫折したとき、マイナスをプラスに跳ね返すエネルギー」の四つが特に心に残りました。私も、生きていて辛いと感じたり、落ち込んだりするときがあります。そんな時は、南水先生の言葉を思い出して、どんな困難にも負けず、がんばっていきたいと思いました。朗読もすばらしかったです。顔や声だけでなく、手の先までも表現していたところが、ぐっと聴く人の心を引きつけました。（比嘉頼子）

講演では、熊澤南水先生のこれまでの生い立ちについて話してくれました。裕福だった生活から一転して、父を亡くし一文無しになり、母の故郷である津軽での生活が、沖縄に住んでいる僕たちには実感がわからないものではありませんでしたが、家族と離れる養女の話がきて、二つ返事で承諾したというエピソードからきっと相当大変だったんだろうと思いました。また、5人の子育てをした中で、「子育ては、目を離さず、手を離す」という言葉が印象的でした。先日の所長講話の中にあつた過剰干渉は子どもをダメにするという資料と同じような内容です。あと、「チャンスは流れ星のよう、それは自分でつかむ」という言葉も印象に残りました。ただ、色んなことがある毎日でチャンスに気づく才能というのにも必要だと思います。何をチャンスと思うかです。「やらない言い訳はつくろうと思えばいくらでも作れるけど、やりたいと思ったらまずやってみる」など、70歳を超えてもまだまだ現役で朗読家として活躍されている南水先生の考え方や生き方は、「プロフェッショナル」だなと感じました。（久高友弥）

「念すれば花開く…」人生を切り開くのは、その一念ですとの言葉が頭から離れません。講話の中では、幼少の頃の話であつたお嬢様から一転した生活にとまどつたことや肉親と離ればなれになって上京したこと、子育てが一段落した後、朗読家の道へ進み現在75歳になるというお話をお聞きし、私がモットーとしている”学びに終点なし”と同じだと感じました。自尊心や自己肯定感が高いからこそ、色々な逆境を乗り越えられるのだと思います。

「チャンスは流れ星のようなものですから、それをつかむには勇気が要ります。そのためには自信がないとダメですし、やはり勉強も必要」という言葉は、私たち教師にも言えることだと思います。常に、「群れない・ぶれない・諦めない」という南水さんの生き方は、女性としてだけでなく人間としても素晴らしい！とても真似はできませんが、少しでも近づけるように努力したいです。

後半の朗読「糸車」では、臨場感あふれる語りで、一人で何役もこなす、しかも、35分間暗唱できの、原作を読んで構成し、更にテープに録音してくり返し聴いているという見えない努力があつたことを知り、感動しました。最後に中学生の子ども達への読み聞かせをする場合は、その学年にあつた読み物を準備することや途中まで聴かせて、あとは自分たちで読んでもらうといいのでは…というアドバイスもありました。お言葉を参考に教育実践に活かしていきたいです。（富名腰由紀）

講演の中で、熊澤さんの人生を聞かせてもらいました。今だから幼い時代の苦労を「ありがとう」といえる。貧しさが自分を強くしてくれた。その言葉がすごく心に残りました。75歳という年齢を感じさせないパワーを熊澤南水さんから受け取りました。本当につらい環境にいる人は、「死にたい」とは言わない、その場から逃げ出したいという、「念すれば花開く」熊澤南水さんの一言ひとことに生き様が感じられ、読み聞かせは小さい子にやるものだという固定観念がありました。朗読は何歳になつてもいいもだと感じました。また、熊澤南水さんの子育て論もすごく参考になりました。「子どもの手ははなしてもかまわないでも目は、はなさない」今は、手を握りすぎて安心して目をはなしている。子どもは、けっこう何でもできる。でも、「みのがさない」ことが大切。さすが5人のお子さん育て方だと思いました。とても感銘を受けました。（波照間生子）